

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 株主総会の基準日 毎年3月31日
※その他必要がある時は、あらかじめ公告のうえ、基準日を設定いたします。
- 期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日
- 中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 (〒530-0004)
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)
- 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
- 単 元 株 式 数 100株
- 公 告 方 法 公告方法は電子公告といたします。
<http://www.asahipretec.com/ir/>



株主の皆様へ

第45期 年次報告書

平成19年4月1日 ~ 平成20年3月31日



ASAHI PRETEC 株式会社

神戸本社
〒650-0001 神戸市中央区加納町4-4-17 ニッセイ三宮ビル
TEL. (078) 333-5600 (代) FAX. (078) 333-5681

東京本社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー11F
TEL. (03) 6270-1820 (代) FAX. (03) 6270-1825

<http://www.asahipretec.com/>



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第45期事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の概況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、上半期は総じて企業部門の収益が伸長する中、設備投資が底堅く推移いたしました。しかし、下半期には原油高騰や米国サブプライムローン問題に端を発した経済不安が広がりました。このような経済環境の下、当社では『“チャレンジ1000～新たなるステージへ”』を掲げた、第4次中期経営計画（目標連結売上高1,300億円、連結営業利益120億円）を推進中であります。当期はその2年目にあたりますが、当社グループは、収益力ある企業体質を維持・強化しながら、既存事業でマーケットシェアを高めるとともに、新規事業分野の開発に努め、事業拡大を推進してまいりました。

結果として、当期の最終実績は、目標としていた連

結売上高1,120億円、連結経常利益額102億円を上回り、連結売上高117,460百万円、連結経常利益額10,858百万円となり、売上高においては4期連続、経常利益においては3期連続で過去最高の業績を更新いたしました。

貴金属リサイクル事業におきましては、主力工場であります埼玉工場、福岡工場の増強が完了したこと、電子材料、歯科材料、宝飾の各分野で回収したリサイクル原材料の総量が前期を上回ったこと、金・銀・パラジウム・プラチナのいずれにつきましても平均販売単価が前期を上回って推移したことにより、過去最高の売上高と利益を更新することができました。

環境保全事業におきましては、写真感光材料分野の縮小はありますが、工場や試験研究機関等から排出される廃試薬・廃液の取扱量が前期を上回りました。また、昨年5月に株式会社太陽化学を完全子会社化し、同じく11月には株式会社サニックス北九州工場の事業譲渡を受けました。このような企業集団の拡大により、顧客開拓やサービス向上等の面で相乗効果を発揮いたしました。

以上のような業績と経営状況でありますので、当社の利益還元の基本方針に従い、当期の期末配当金を1株当たり25円とさせていただきます。これにより、中間配当金と合わせた当期の年間配当金は50円となります。

第46期（平成21年3月期）は当社グループにとって第4次中期経営計画の最終年度にあたります。連結売上高1,300億円、連結営業利益120億円の経営目標の実現に向けてアサヒプリテックグループ一丸となって努力する所存でございます。

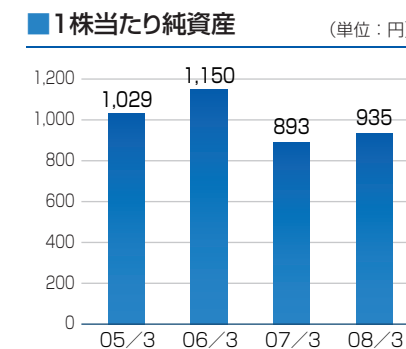
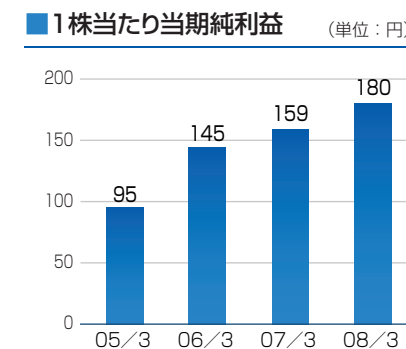
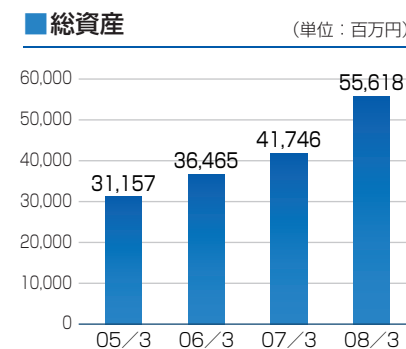
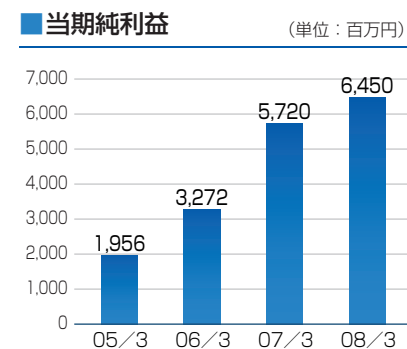
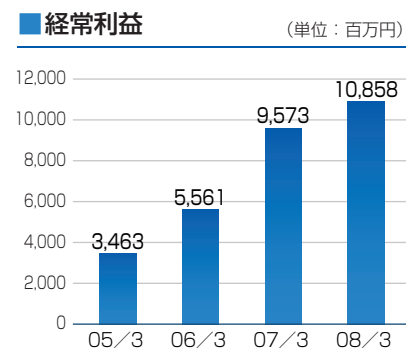
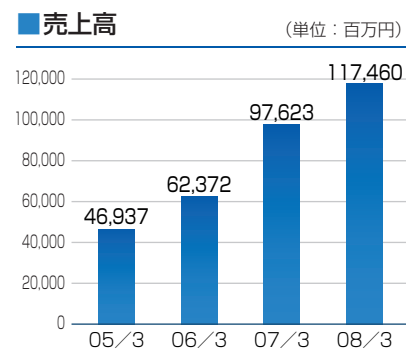
なお今般、アサヒプリテックグループの成長性と収益性に資する戦略の一環として、グループ全体を統括する持株会社である『アサヒホールディングス株式会社』を平成21年4月に設立いたします。貴金属・希少金属等のリサイクル事業に従事する「アサヒプリテック株式会社」と、廃棄物処理その他の環境事業に従事する「ジャパンウェイスト株式会社」（平成20年5月1日に設立済）の二つの会社は、傘下の中核事業会社として、より一層事業毎の機動性や専門性を高め、顧客サービスに努めてまいりますので、株主の皆様におかれましてもご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長兼社長

寺山 満春

財務ハイライト（連結ベース）



※ 当社は平成18年10月1日付で株式1株につき1.5株の株式分割を行っております。

営業概況

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは「社会的貢献」「企業の永続」「人間尊重」を経営理念として、安定と成長の両立により企業価値を継続的に高める経営を実践しております。昭和27年の創業以来、貴金属リサイクルおよび環境保全の両事業において、事業環境が激しく変化中、新たな分野での事業開拓等により、着実に成長を遂げてまいりました。今後とも、すべてのステークホルダーとの関係を大切にしつつ、循環型社会形成に幅広く貢献することを通して事業の発展を続けていきたいと考えております。このため、中長期的視野に立った新規事業の創造、リスクマネジメント体制の強化および経営の総合的な効率向上を重視いたします。

(2) 利益配分に関する基本方針および当期・次期の配当

当社グループは、安定した収益力の維持と更なる成長によって企業価値の向上を図り、配当などを通して株主の皆様の期待に応えることを基本方針としております。一方、成長分野への投資や新規事業開発等に備えるため、内部留保の充実を図ることも重要であると考えております。

以上の基本方針を踏まえ、当期の期末配当金につきましては、1株当たり25円とさせていただきます。中間配当金と合わせた当期の年間配当金は、1株当たり50円となります。また、次期の中間配当金は25円、期末配当金は30円（年間配当金55円）を予定しています。

なお、当期には将来のM&A等の資金充当を目的に、市場買付けにより自己株式を2,000千株（5,846百万円）取得しました。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、「チャレンジ 1000 ～新たなステージへ」をスローガンとし、第4次中期経営計画（平成18年4月～平成21年3月）をスタートさせました。当初、最終年度の連結売上高1,000億円、連結営業利益額75億円を経営目標としておりましたが、初年度である前連結会計年度において、エレクトロニクス分野や宝飾加工・製造分野などで貴金属回収量を大幅に拡大し、また販売単価が想定した水準を上回って推移したことから、当初の経営目標をより早期に達成することが可能であると判断し、平成19年3月、次のとおり上方修正いたしました。

| | |
|---------|---------|
| 連結売上高 | 1,300億円 |
| 連結営業利益 | 120億円 |
| 純資産配当比率 | 5.0% |

現時点において、第4次中期経営計画最終年度業績予想の連結売上高および連結営業利益に修正はありませんが、純資産配当比率は5.5%へ好転する見込みです。

(4) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方およびその施策の実施状況

①コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

上場企業としての社会的使命と責任を果たし、永続的な成長と発展を実現するため、コンプライアンスを重視しつつ、経営環境の変化に迅速に対応できるトップマネジメント構造の整備および事業執行体制の充実を推進しております。

②コーポレートガバナンスに関する施策の実施状況

■取締役会

当社の取締役会は社内取締役で構成され、経営計画や資金計画等の重要な事項について審議・決定するとともに、執行役員を主体とした業務執行の監督を厳正に行っております。取締役会は定時開催のほか必要に応じ随時開催しております。

■経営戦略会議

経営戦略会議は取締役と関係部門長で構成され、新規事業や投融資等に関して迅速かつ機動的に審議・決定を行います。取締役会専決事項についても、特に重要なものについては、事前に経営戦略会議において審議し、戦略的意思決定に係る審議の充実を図っております。

■経営会議

経営会議は、執行役員を兼任する取締役および執行役員を中心に構成され、事業計画の進捗等に関する審議を行うとともに、取締役会や経営戦略会議で決定された方針・戦略を遂行するための施策を審議いたします。

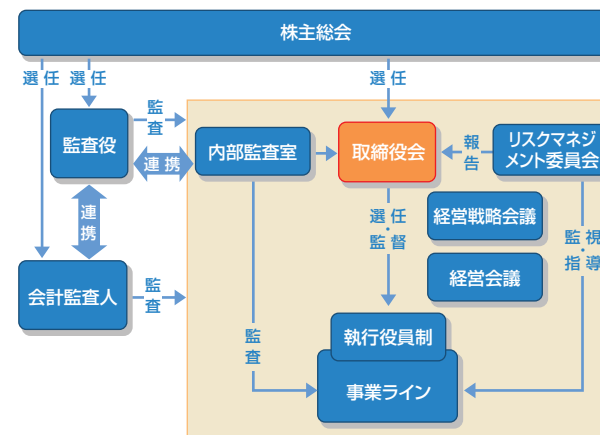
■監査役・監査役会

当社は監査役制度を維持しております。監査役は現在4名で、内3名が社外監査役（弁護士2名、公認会計士1名）で構成され、取締役会への出席、営業所・工場等への往査、会計監査人からの会計監査結果報告会等を実施しております。監査役と内部監査室は、情報の交換を密に行い、連携して内部統制システムの強化を推進しております。

■独立監査人

当社は新日本監査法人に会計監査を委託しております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の図式は次のとおりです。



③会社法に基づく内部統制システムの整備状況

取締役会は、経営の基本方針・計画・戦略・法令で定められた事項、その他経営に関する重要事項を決定するとともに、当社グループの事業執行状況をチェックする体制をとっております。

監査役は取締役会に出席し、コーポレートガバナンスの一翼を担う独立の機関であるとの認識の下、業務執行の全般に亘って監査を実施しております。

独立監査人である新日本監査法人は、監査人として独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明しております。

また、当社は、当社全グループを対象として業務の適正な運営・改善・効率化を図るべく、内部監査室による計画的で網羅的な内部監査を実施しております。

④金融商品取引法に基づく内部統制の整備状況

金融商品取引法の内部統制対応のため、当社全グループを対象とする「内部統制プロジェクト」を立上げ、内部管理体制の整備を推進してまいりました。全社統制・業務処理統制・IT全般統制につき、本年3月に事前準備対応が完了しております。

⑤リスク管理体制の整備状況

当社グループの事業遂行プロセス、業務構造等に潜在するリスクを適切にコントロールするため、全社横断的組織として、リスクマネジメント委員会を設置しております。リスクマネジメント委員会は、CSR推進部を事務局として、事業活動上のリスクの把握・評価および対策を実施しております。これらの管理体制により、コンプライアンスを確立しつつリスクの顕在化を未然に防止いたします。

(5) 決算の概要

①業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、前半には企業収益の改善に伴う設備投資の増加や雇用情勢の改善などにより着実に拡大したものの、後半はサブプライムローン問題や原油価格の高騰に加え、円高の進行や株価の変動などにより、企業の景況感が後退する厳しい状況となりました。

このような経済状況下ではありますが、当社グループは個々の事業の採算性向上と既存事業におけるマーケットシェアの拡大に努めました。

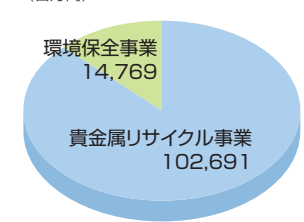
貴金属リサイクル事業領域にしましては、電子材料分野では、既存顧客の維持および新規顧客開拓により、金・銀・パラジウム・インジウムの貴金属原材料回収量は前期を上回りました。歯科材料分野では、リサイクル原材料の供給が安定的に推移する中でマーケットシェアを拡大し、貴金属原材料回収量は前期を上回りました。宝飾製造・流通分野では、価格高騰を背景に流通市場全体での供給量増加が追い風となり、貴金属原材料回収量は前期を大幅に上回りました。また、連結子会社であるASAHI G&S SDN. BHD.、上海朝日浦力環境科技有限公司および韓国アサヒプリテック株式会社の業績も堅調に推移し、貴金属リサイクル事業の規模拡大に貢献いたしました。なお、貴金属平均販売単価に関しては、金・銀・パラジウム・プラチナのいずれも前期の平均販売単価を上回り、インジウムは前期の平均販売単価を下回りました。

環境保全事業領域にしましては、写真感光材料分野では、デジタルカメラ普及の影響を受け、写真感材廃液の処理量は前期を下回りましたが、工場や試験研究機関等から排出される廃試薬・廃液の取扱量は前期を上回りました。また、各連結子会社の業績も堅調に推移し、昨年5月に完全子会社化した株式会社太陽化学と11月に株式会社サニックスより譲り受けた北九州事業所も環境保全事業の規模拡大と相乗効果の発揮に貢献いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高117,460百万円（前期比20.3%増）、営業利益10,825百万円（前期比13.0%増）、経常利益10,858百万円（前期比13.4%増）、当期純利益6,450百万円（前期比12.8%増）と増収増益を達成し、売上高は4期連続、経常利益は3期連続で過去最高を達成しました。売上高をセグメント別にみますと、貴金属リサイクル事業が102,691百万円、環境保全事業が14,769百万円となりました。

セグメント別売上高(連結)

(百万円)



営業概況

② 財政状態

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益10,558百万円に減価償却費1,956百万円を加え、たな卸資産の増加および法人税等の支払等を加減した結果878百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出2,044百万円および事業譲受けによる支出2,150百万円等により、4,147百万円の減少となりました。主な設備投資は、福岡工場および埼玉工場の増設であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長短借入金の純増加額13,032百万円、自己株式取得による支出5,859百万円および配当金の支払額1,797百万円等により、5,380百万円の増加となりました。

以上の結果、現金および現金同等物の期末残高は2,054百万円となりました。

(6) 今後の見通し

翌連結会計年度のが国経済は、民間設備投資の縮小や物価上昇による個人消費の沈滞から景気は減速すると懸念されます。一方わが国における環境保全意識は年々高まっており、資源循環やゼロエミッションに向けての取り組みはますます積極化することが予想されます。

当社グループは、様々なリサイクルや廃棄物処理を業とする自らの役割の社会的重要性を認識し、希少資源確保と環境保護に貢献しつつ、収益の安定と成長の持続に向けて努力してまいります。

その一環として、平成21年4月に持株会社アサヒホールディングス株式会社を設置することにより、グループ全体の成長性と収益性に資する戦略機能を一層強化することとしました。またアサヒホールディングスの下、主に「貴金属・希少金属等のリサイクル事業」に従事するアサヒプリテック株式会社と「廃棄物処理その他の環境保全事業」に従事するジャパンウェイスト株式会社との二つの事業部門に分け、それぞれの経営責任を明確にした上で、事業毎の意思決定の迅速性・機動性を促すとともに、顧客サービス向上のために自立性と専門性を高めてまいります。

なお、ジャパンウェイスト株式会社は、本年5月1日付で設立し、各自治体の許認可を取得次第、アサヒプリテック株式会社から環境保全業務を順次移転させる予定です。

貴金属リサイクル事業領域においては、特に収益力の維持・向上を重視します。電子材料分野では液晶パネルに使用されるインジウムリサイクルや、自動車触媒に使用される貴金属リサイクルの顧客基盤の拡大を図ります。歯科材料分野では顧客に対するサービスの質を一層高めながら、マーケットシェアの拡大を図ります。宝飾製造・流通分野では、営業体制の強化により回収量の拡大を図ります。加えて、各営業部門と技術部門との緊密な連携により、取扱品目の拡大や製造コストの低減に努めてまいります。

環境保全事業領域においては、廃試薬・廃液処理等の個々の事業を一層強化し、環境保全関連のさまざまな技術やサービス能力を有する子会社と一体となったグループ総合営業を展開し、大規模法人顧客等の満足度と信頼感を高めながら、高付加価値型の事業構造を確立いたします。

(7) アサヒプリテック・グループについて

当社グループは、アサヒプリテック株式会社（当社）及び子会社10社で構成されており、次のとおり、貴金属リサイクルと環境保全を主たる事業としております。

① 貴金属リサイクル事業

貴金属リサイクル事業は、貴金属含有スクラップ等から、金・銀・パラジウム・プラチナ・インジウム等の貴金属・希少金属をリサイクルし、販売することを主たる業務としております。

当社は国内において、電子材料分野、歯科材料分野、宝飾製造・流通分野、自動車触媒分野から集荷した貴金属・希少金属含有スクラップを、各地の工場にて回収・分離・精錬し、高純度の地金製品等として、商社、半導体・電子部品メーカー、フィルムメーカー等に販売しております。海外では、ASAHI G&S SDN. BHD.がマレーシア・シンガポール地域において、上海朝日浦力環境科技有限公司が中国において、また、韓国アサヒプリテック株式会社が韓国において、貴金属リサイクル事業を推進しております。

② 環境保全事業

環境保全事業は、産業廃棄物の収集運搬および中間処理を主たる業務としております。

当社は、各業界の工場、写真現像所、印刷所、病院、学校、研究機関等から排出される、廃酸・廃アルカリ、廃油、汚泥、廃薬品、感染性医療廃棄物等を処理・無害化しております。株式会社三商、日本ケミテック株式会社は、主として工場から排出される産業廃棄物の収集運搬および中間処理を行っており、当社から産業廃棄物の中間処理を一部委託しております。株式会社塩入建材は、土木工事・解体事業に加え、そこから発生する建設廃材の再資源化や建設発生土の再生を行っております。株式会社イヨテックは、製造業への人材派遣等を業としており、製造現場から発生する廃棄物を処理する事業との連携を推進しております。株式会社太陽化学は、IT・エレクトロニクス・石油化学関連の企業から排出される工場廃液および医療系感染性廃棄物等を処理しております。

中期経営計画

第4次中期経営計画の状況

当社グループは現在「チャレンジ1000 ～新たなステージへ」をスローガンとして第4次中期経営計画を推進しています。

その初年度である2006年度は貴金属リサイクル事業領域において、目標を上回る貴金属の回収量を実現し、加えて貴金属販売単価が当初想定した水準を上回って推移いたしました。環境保全事業領域では、情報機器のリサイクルやその他分野で関係会社と一体となった廃棄物関連サービスの実績を拡大することができました。

以上のことから、2007年3月に第4次中期経営計画の最終年度（2009年3月期）の経営目標を上方修正することを発表いたしました。

2年目にあたる2007年度は、福岡インジウム工場の生産能力増強、埼玉工場の貴金属精製ラインの大規模更新等の基盤整備も順調に完了いたしました。また株式会社太陽化学を完全子会社化し、株式会社サニックス北九州工場の事業を譲受け、企業集団の拡大を図りつつ、顧客開拓やサービス向上等の面で相乗効果を発揮いたしました。

2008年度は第4次中期経営計画の最終年度にあたります。引き続き、第4次中期経営計画における経営方針・施策に沿って、新規事業領域の開拓、アジア地域を中心とする海外事業の拡大等に努め、経営目標の達成に努めてまいります。

| 2008年度 経営目標 | | 当初設定 | 2008年度計画 |
|----------------|----------------|---------|----------|
| | 連結売上高 | 1,000億円 | 1,300億円 |
| | 連結営業利益 | 75億円 | 120億円 |
| | 連結営業利益率 | 7.5% | 9.2% |
| | 連結DOE（純資産配当比率） | 3.6% | 5.5% |

| 目標・実績 | 2006 | 2007 | 2008 | |
|-------|---------------------------------|--------|---|---------|
| | (単位：百万円) | | (単位：百万円) | |
| 目 標 | 売上高 | 73,000 | 112,000 | 130,000 |
| | 営業利益 | 6,300 | 10,200 | 12,000 |
| | キャッシュ・フロー | | | |
| | 営業活動 | 4,281 | △878 | |
| | 投資活動 | △3,325 | △4,147 | |
| 実 績 | 売上高 | 97,623 | 117,460 | |
| | 営業利益 | 9,577 | 10,825 | |
| | キャッシュ・フロー | | | |
| | 営業活動 | 4,281 | △878 | |
| | 投資活動 | △3,325 | △4,147 | |
| ポイント | ① 韓国現地法人設立 ② 神戸/東京 2本社体制への移行 | | ① 株式会社太陽化学を完全子会社化 ② 株式会社サニックス北九州工場の事業譲受け | |
| | | | ① ジャパンウェイスト株式会社設立 (2008.5.1) | |
| | | | | |

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：千円)

| 科目 | 期別 | 当期末 (平成20年3月31日) | 前期末 (平成19年3月31日) | 科目 | 期別 | 当期末 (平成20年3月31日) | 前期末 (平成19年3月31日) |
|----------------|----|---------------------|---------------------|----------------|----|---------------------|---------------------|
| 資産の部 | | | | 負債の部 | | | |
| 流動資産 | | | | 流動負債 | | | |
| 現金及び預金 | | 2,054,471 | 1,491,973 | 支払手形及び買掛金 | | 3,102,091 | 2,354,333 |
| 受取手形及び売掛金 | | 4,858,624 | 3,371,777 | 短期借入金 | | 15,550,000 | 2,250,034 |
| 1 たな卸資産 | | 21,251,193 | 14,217,377 | 一年内返済予定長期借入金 | | 14,280 | 20,680 |
| 繰延税金資産 | | 726,209 | 521,876 | 未払金 | | 1,009,489 | 1,142,302 |
| その他 | | 2,045,566 | 215,120 | 未払法人税等 | | 2,447,265 | 2,683,159 |
| 貸倒引当金 | | △ 7,702 | △ 4,764 | 賞与引当金 | | 662,218 | 624,845 |
| 2 固定資産 | | 24,690,604 | 21,932,900 | 役員賞与引当金 | | 40,000 | 25,000 |
| 有形固定資産 | | 22,272,104 | 21,013,257 | 修繕引当金 | | 96,764 | — |
| 建物及び構築物 | | 7,091,121 | 6,305,910 | その他 | | 465,895 | 440,307 |
| 機械装置及び運搬具 | | 4,278,296 | 3,316,276 | 固定負債 | | 230,608 | 210,830 |
| 土地 | | 9,817,760 | 9,339,854 | 長期借入金 | | 10,750 | 25,030 |
| 建設仮勘定 | | 602,957 | 1,481,731 | 退職給付引当金 | | 104,763 | 62,691 |
| その他 | | 481,968 | 569,483 | 繰延税金負債 | | 110,120 | 110,497 |
| 無形固定資産 | | 1,890,714 | 308,207 | 負ののれん | | — | 12,610 |
| のれん | | 1,621,631 | — | その他 | | 4,974 | — |
| その他 | | 269,082 | 308,207 | 負債合計 | | 23,618,612 | 9,751,493 |
| 投資その他の資産 | | 527,785 | 611,436 | 純資産の部 | | | |
| 投資有価証券 | | 48,222 | 138,465 | 株主資本 | | 31,950,759 | 31,960,079 |
| 繰延税金資産 | | 88,259 | 46,166 | 資本金 | | 4,480,817 | 4,480,817 |
| その他 | | 399,486 | 437,218 | 資本剰余金 | | 6,869,793 | 6,054,118 |
| 貸倒引当金 | | △ 8,182 | △ 10,415 | 利益剰余金 | | 26,496,374 | 21,844,950 |
| 資産合計 | | 55,618,967 | 41,746,262 | 3 自己株式 | | △ 5,896,225 | △ 419,807 |
| | | | | 評価・換算差額等 | | 16,222 | 4,803 |
| | | | | その他有価証券評価差額金 | | 468 | 3,813 |
| | | | | 為替換算調整勘定 | | 15,754 | 989 |
| | | | | 少数株主持分 | | 33,371 | 29,886 |
| | | | | 純資産合計 | | 32,000,354 | 31,994,768 |
| | | | | 負債純資産合計 | | 55,618,967 | 41,746,262 |

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

POINT 1 たな卸資産の増加

当社の既存顧客の維持・拡大ならびに新規顧客の開拓により貴金属原材料の回収量が増加し、たな卸資産が増加いたしました。

POINT 2 固定資産の増加

太陽化学の完全子会社化およびサニックス北九州工場の事業譲受けにより、固定資産が増加いたしました。

POINT 3 自己株式の増加

将来のM&A等の資金充当を目的として、市場買付けにより自己株式を2,000千株(5.846百万円)取得いたしました。

連結損益計算書

(単位：千円)

| 科目 | 期別 | 当期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで) | 前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで) |
|---------------|----|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高 | | 117,460,380 | 97,623,964 |
| 売上原価 | | 102,614,383 | 84,680,290 |
| 売上総利益 | | 14,845,997 | 12,943,674 |
| 販売費及び一般管理費 | | 4,020,100 | 3,365,996 |
| 4 営業利益 | | 10,825,896 | 9,577,678 |
| 営業外収益 | | 126,318 | 39,044 |
| 営業外費用 | | 93,855 | 42,738 |
| 経常利益 | | 10,858,359 | 9,573,984 |
| 特別利益 | | 20,178 | 41,038 |
| 特別損失 | | 319,973 | 256,525 |
| 税金等調整前当期純利益 | | 10,558,563 | 9,358,497 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 4,296,412 | 3,681,734 |
| 法人税等調整額 | | △ 191,975 | △ 48,011 |
| 少数株主利益 | | 3,485 | 4,401 |
| 当期純利益 | | 6,450,641 | 5,720,372 |

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | 評価・換算差額等 | | | 少数株主持分 | 純資産合計 | |
|---------------------------|-----------|-----------|------------|------------|------------|--------------|----------|--------|--------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 為替換算調整勘定 | | | 評価・換算差額等合計 |
| 平成19年3月31日残高 | 4,480,817 | 6,054,118 | 21,844,950 | △419,807 | 31,960,079 | 3,813 | 989 | 4,803 | 29,886 | 31,994,768 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △1,799,217 | | △1,799,217 | | | | | △1,799,217 |
| 当期純利益 | | | 6,450,641 | | 6,450,641 | | | | | 6,450,641 |
| 自己株式の取得 | | | | △5,859,017 | △5,859,017 | | | | | △5,859,017 |
| 自己株式の処分 | | | | 382,599 | 1,982,273 | | | | | 1,982,273 |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) | | | | | | △3,345 | 14,764 | 11,419 | 3,485 | 14,905 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | — | 815,674 | 4,651,424 | △5,476,417 | △9,319 | △3,345 | 14,764 | 11,419 | 3,485 | 5,585 |
| 平成20年3月31日残高 | 4,480,817 | 6,869,793 | 26,496,374 | △5,896,225 | 31,950,759 | 468 | 15,754 | 16,222 | 33,371 | 32,000,354 |

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

POINT 4 営業利益の増加

貴金属リサイクル事業において、リサイクル原材料回収量および金・銀・パラジウム・プラチナの貴金属平均販売単価が前期の水準を上回りました。
環境保全事業において、写真感光材料分野では写真感材廃液の処理量およびそこに含まれる銀の回収量は減少しましたが、工場や試験研究機関等から排出される廃試薬・廃液の取扱量は前期の水準を上回りました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| 科目 | 期別 | 当期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで) | 前期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで) |
|---------------------------|----|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 5 営業活動によるキャッシュ・フロー | | △ 878,104 | 4,281,352 |
| 6 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △ 4,147,791 | △ 3,325,275 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | 5,380,884 | △ 1,052,042 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | 24,644 | 3,213 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | | 379,634 | △ 92,751 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 1,491,973 | 1,584,724 |
| 株式交換による現金及び現金同等物増加額 | | 182,863 | — |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | | 2,054,471 | 1,491,973 |

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

POINT 5 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益10,558百万円に減価償却費1,956百万円を加え、たな卸資産の増加および法人税等の支払等を加減した結果878百万円の減少となりました。

POINT 6 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは固定資産の取得による支出2,044百万円や事業譲受けによる支出2,150百万円により、4,147百万円の減少となりました。主な設備投資は、福岡工場および埼玉工場の増設であります。

単体財務諸表

貸借対照表

(単位:千円)

| 科目 | 期別 | 当期末 | | 科目 | 期別 | 当期末 | |
|-----------------|----|-------------------|---------------------|-----------------|----|-------------------|---------------------|
| | | (平成20年3月31日) | 前期末 (平成19年3月31日) | | | (平成20年3月31日) | 前期末 (平成19年3月31日) |
| 資産の部 | | | | 負債の部 | | | |
| 流動資産 | | 29,656,083 | 19,105,435 | 流動負債 | | 22,873,498 | 9,068,906 |
| 現金及び預金 | | 1,262,529 | 852,182 | 買掛金 | | 2,890,502 | 2,135,781 |
| 受取手形 | | 72,794 | 48,427 | 短期借入金 | | 15,550,000 | 2,200,000 |
| 売掛金 | | 3,672,319 | 2,370,437 | 一年内返済予定長期借入金 | | — | 6,400 |
| たな卸資産 | | 21,212,949 | 14,186,639 | 未払金 | | 841,461 | 1,030,959 |
| 関係会社短期貸付金 | | 769,440 | 992,320 | 未払法人税等 | | 2,363,915 | 2,626,989 |
| 繰延税金資産 | | 649,099 | 486,633 | 賞与引当金 | | 590,020 | 588,869 |
| その他 | | 2,018,149 | 169,994 | 役員賞与引当金 | | 40,000 | 25,000 |
| 貸倒引当金 | | △1,200 | △1,200 | 修繕引当金 | | 96,764 | — |
| 固定資産 | | 23,134,673 | 20,519,724 | その他の | | 500,833 | 454,906 |
| 有形固定資産 | | 17,547,481 | 16,766,068 | 固定負債 | | 97,000 | 50,799 |
| 建物 | | 5,556,783 | 4,912,332 | 退職給付引当金 | | 92,025 | 50,799 |
| 機械及び装置 | | 3,653,777 | 2,705,546 | その他 | | 4,974 | — |
| 土地 | | 7,077,986 | 6,807,712 | 負債合計 | | 22,970,498 | 9,119,705 |
| 建設仮勘定 | | 421,618 | 1,444,795 | 純資産の部 | | | |
| その他 | | 837,314 | 895,680 | 株主資本 | | 29,818,916 | 30,502,038 |
| 無形固定資産 | | 1,135,877 | 297,984 | 資本金 | | 4,480,817 | 4,480,817 |
| 投資その他の資産 | | 4,451,314 | 3,455,671 | 資本剰余金 | | 6,869,793 | 6,054,118 |
| 投資有価証券 | | 43,425 | 137,356 | 利益剰余金 | | 24,364,530 | 20,386,909 |
| 関係会社株式 | | 2,921,578 | 1,856,928 | 自己株式 | | △5,896,225 | △419,807 |
| 関係会社出資金 | | 214,380 | 214,380 | 評価・換算差額等 | | 1,341 | 3,416 |
| 関係会社長期貸付金 | | 900,000 | 900,000 | その他有価証券評価差額金 | | 1,341 | 3,416 |
| 繰延税金資産 | | 84,072 | 24,231 | 純資産合計 | | 29,820,257 | 30,505,454 |
| その他 | | 289,645 | 324,390 | 負債純資産合計 | | 52,790,756 | 39,625,160 |
| 貸倒引当金 | | △1,787 | △1,615 | | | | |
| 資産合計 | | 52,790,756 | 39,625,160 | | | | |

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:千円)

| 科目 | 期別 | 当期 | | 前期 | |
|--------------|----|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | | (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで) | (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで) | (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで) | (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで) |
| 売上高 | | 110,084,514 | 90,867,957 | | |
| 売上原価 | | 97,209,102 | 79,319,073 | | |
| 売上総利益 | | 12,875,411 | 11,548,884 | | |
| 販売費及び一般管理費 | | 2,998,983 | 2,657,899 | | |
| 営業利益 | | 9,876,427 | 8,890,985 | | |
| 営業外収益 | | 96,892 | 42,202 | | |
| 営業外費用 | | 85,652 | 40,457 | | |
| 経常利益 | | 9,887,667 | 8,892,730 | | |
| 特別利益 | | 61,594 | 2,032 | | |
| 特別損失 | | 272,365 | 218,376 | | |
| 税引前当期純利益 | | 9,676,895 | 8,676,386 | | |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 4,121,007 | 3,575,748 | | |
| 法人税等調整額 | | △220,950 | △31,251 | | |
| 当期純利益 | | 5,776,838 | 5,131,890 | | |

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:千円)

| | 株主資本 | | | | | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 | | |
|-------------------------|-----------|-----------|----------|---------|------------|------------|------------|--------------|--------|--------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | | | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | | | | | |
| 平成19年3月31日残高 | 4,480,817 | 6,054,118 | — | 228,417 | 13,889,260 | 6,269,231 | △419,807 | 30,502,038 | 3,416 | 3,416 | 30,505,454 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | | | | | |
| 特別償却準備金の取崩し | | | | | △24,244 | 24,244 | | — | | | — |
| 別途積立金の積立 | | | | | 3,000,000 | △3,000,000 | | — | | | — |
| 剰余金の配当 | | | | | | △1,799,217 | | △1,799,217 | | | △1,799,217 |
| 当期純利益 | | | | | | 5,776,838 | | 5,776,838 | | | 5,776,838 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | △5,859,017 | △5,859,017 | | | △5,859,017 |
| 自己株式の処分 | | | | | | | 382,599 | 1,198,273 | | | 1,198,273 |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) | | | | | | | | | △2,074 | △2,074 | △2,074 |
| 事業年度中の変動額合計 | | | | | | | | | △2,074 | △2,074 | △685,196 |
| 平成20年3月31日残高 | 4,480,817 | 6,054,118 | 815,674 | 228,417 | 16,865,015 | 7,271,097 | △5,896,225 | 29,818,916 | 1,341 | 1,341 | 29,820,257 |

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■新たなスタート ～アサヒホールディングス設立～

当社は、今回平成21年4月に『アサヒホールディングス株式会社』を設立し、その傘下に、

- ①アサヒプリテック株式会社＝「貴金属・希少金属等のリサイクル事業」
- ②ジャパンウェイスト株式会社＝「廃棄物処理その他の環境保全事業」

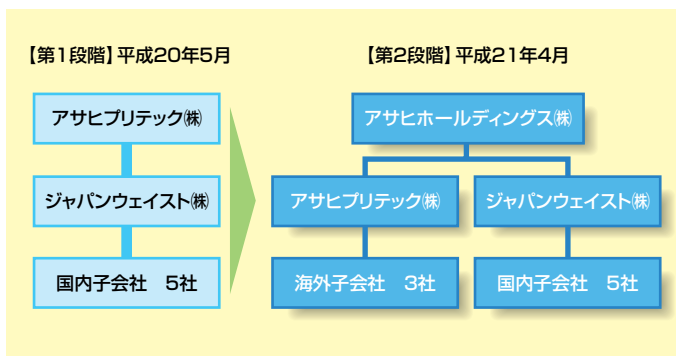
の二つの事業会社を保有する持株会社制に移行いたします。それぞれの事業毎の意思決定の迅速性・機動性を促すとともに、経営責任を明確化し、顧客サービス向上に努めてまいります。また、自立性と専門性を高めることにより、グループ全体の成長性と収益性に資する戦略機能の強化を図ってまいります。

【第1段階】平成20年5月 当社国内子会社株式の現物出資による子会社の設立

当社が保有する国内子会社5社（日本ケミテック株式会社・株式会社三商・株式会社塩入建材・株式会社太陽化学・株式会社イヨテック）の全株式を現物出資し、本年5月1日を期日として当社完全子会社である『ジャパンウェイスト株式会社』を設立し、アサヒプリテック株式会社の完全子会社といたします。

【第2段階】平成21年4月 株式移転による持株会社「アサヒホールディングス株式会社」の設立

アサヒプリテック株式およびジャパンウェイスト株式を共同で移転する株式移転方式により、純粋持株会社「アサヒホールディングス株式会社」を設立し、平成21年4月1日をもちまして当社とジャパンウェイスト株式会社は持株会社の完全子会社となります。



■テクノセンター（神戸市）を増築

テクノセンターは当社の事業を技術面で支援する拠点であり、貴金属リサイクル事業・環境保全事業の両分野における研究開発・分析・検査等の重要な役割を担っております。

開設後10年を迎える本年、当社はテクノセンターに新棟を増築することといたしました。平成20年度上期中の完成を予定しております。品質の向上と技術革新を通じ、社会に貢献する企業としてさらなる飛躍を目指してまいります。



完成予想図

■情報機器リサイクルに特化した新リサイクルセンターを建設

顧客企業からの回収品目多様化への対応と情報機器リサイクル事業の拡大を目指し、当社は平成19年10月、埼玉県春日部市に新たなリサイクルセンターを設置いたしました。当社のリサイクルセンターとしては尼崎・千葉に続く3拠点目となります。長年のリサイクル事業で築いた事業インフラを活用し、ゼロエミッションの推進に貢献してまいります。

施設概要 名称：埼玉リサイクルセンター
所在地：埼玉県春日部市南栄町8-8
敷地面積：2,935㎡



廃プラスチック等破砕施設

埼玉リサイクルセンター

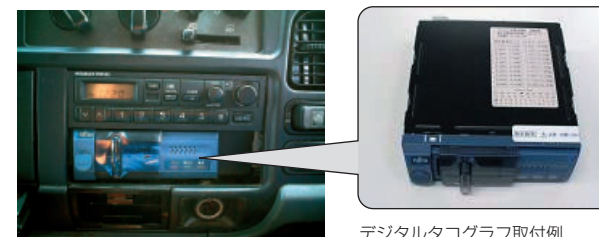
■耐変色性に優れた歯科鑄造用合金を製品化

金属組織の改良により耐変色性（耐硫化性）に優れた新しい歯科鑄造用合金を開発し製品化いたしました。新商品の「アサヒキャスト12ピュア」は当社従来品と比較した場合、強度、伸び、硬度等の物性や鑄造性は従来品と同等でありながら、耐変色性が向上しております。



■エコドライブコンテストで特別賞を受賞

当社は平成18年度に省エネルギー対策の一層の推進のためNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より「平成18年度エネルギー使用合理化事業者支援事業」の補助金を受給し、営業用車両約400台に対し、デジタルタコグラフを導入いたしました。デジタルタコグラフ導入により、前年比、約4%の燃費向上が達成できました。



デジタルタコグラフ取付例

エコドライブコンテストで「特別賞」を受賞

燃費削減効果が明確になったこともあり、今回初めて「独立行政法人 環境再生保全機構」が主催した「エコドライブコンテスト」に応募いたしました。その結果、会社全体としての取組みを評価していただき、平成19年12月に「特別賞」を受賞することができました。



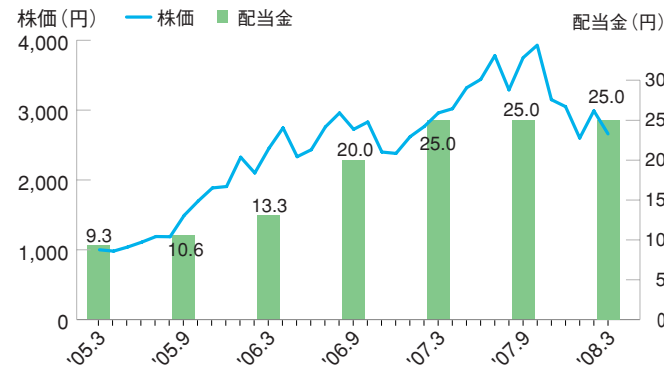
株式の状況 (平成20年3月31日現在)

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 129,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 36,254,344株 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主数 | 10,601名 |
| 大株主 | |

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|---------------------------|---------|--------|
| 寺山満春 | 3,702千株 | 10.21% |
| 寺山正道 | 2,702 | 7.45 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,245 | 3.43 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,146 | 3.16 |
| 花井幸子 | 845 | 2.33 |

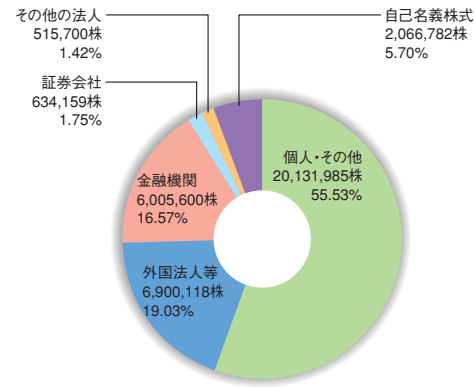
※上記のほか、自己株式2,066千株を保有しております。

株価・1株当たり配当金の推移

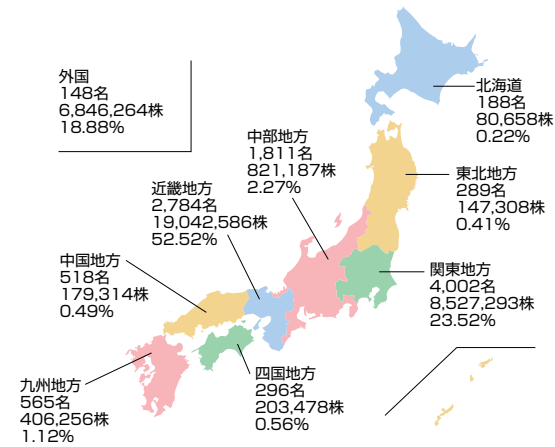


注) 当社は2006年10月1日付けで株式1株につき1.5株の株式分割を行っておりますので、上記は分割調整後の株価です。

所有株式数別分布状況



地域別株式分布状況



会社の概要

(平成20年6月13日現在)

会社概要

商号 アサヒブリテック株式会社
 創業 1952(昭和27)年7月
 資本金 44億8千万円
 神戸本社所在地 神戸市中央区加納町4-4-17 ニッセイ三宮ビル
 東京本社所在地 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー11F
 従業員数 845名(平成20年3月31日現在)
 事業内容 貴金属・希少金属資源のリサイクル
 環境保全(産業廃棄物の無害化処理)
 子会社 ジャパンウェスト株式会社(平成20年5月1日設立)
 日本ケミテック株式会社
 株式会社三商
 株式会社塩入建材
 株式会社イヨテック
 株式会社太陽化学
 ASAHI G&S SDN. BHD. (マレーシア)
 上海朝日浦力環境科技有限公司(中国)
 韓国アサヒブリテック株式会社(韓国)

事業所

■本社事務所 神戸、東京
 ■研究所 テクノセンター
 ■工場 埼玉、尼崎、神戸、愛媛、北九州、北九州ひびき、福岡(以上7ヶ所)
 ■リサイクルセンター 埼玉、千葉、尼崎
 ■営業所 札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、静岡、名古屋、北陸、大阪、神戸、岡山、広島、四国、福岡、北九州、鹿児島、沖縄(以上20ヶ所)

取締役・執行役員および監査役

| | |
|------------|------|
| 代表取締役会長兼社長 | 寺山満春 |
| 取締役 常務執行役員 | 武内義勝 |
| 取締役 常務執行役員 | 木村俊雄 |
| 取締役 執行役員 | 赤羽昇 |
| 取締役 執行役員 | 東浦知哉 |
| 取締役 執行役員 | 平野眞幸 |
| 取締役 執行役員 | 田辺幸夫 |
| 執行役員 | 権藤邦哲 |
| 執行役員 | 岩木寛昌 |
| 執行役員 | 奥村恵一 |
| 常勤監査役 | 井上正己 |
| ※監査役 | 小林貞五 |
| ※監査役 | 徳嶺和彦 |
| ※監査役 | 有海澈明 |

※会社法第2条第16号に定める社外監査役

■ISO 14001 取得拠点 神戸本社、テクノセンター、仙台、北関東、名古屋、大阪、尼崎工場、尼崎リサイクルセンター、神戸、四国、福岡

■ISO 9001 取得拠点 テクノセンター、愛媛、福岡

プライバシーマーク取得

■収集運搬業許可 47都道府県・57政令市

■処分業許可 12都道府県・9政令市